

生化学・免疫検査技師のこれから

AI・Iot・ビッグデータとタスクシフトをつなぐ

◎大城 佑馬¹⁾

沖縄県立宮古病院¹⁾

【はじめに】

最近、「AI」や「IoT」、「ビッグデータ」という単語を耳にする機会が増えたと思う。ニュースでは「AIで暮らしを便利に」というポジティブな意見もあれば、「AIに仕事を奪われる」という報道もされており、捉え方は様々だ。また、医療の分野では「タスクシフト」が直近の話題であり、検査技師においても医師・看護師が担ってきた分野を受け持つ流れになってきている。今回、「AI・Iot・ビッグデータとタスクシフト」をテーマに今後の生化学・免疫検査技師のこれからについて考えていきたい。

【AI・Iot・ビッグデータで出来る事】

現在、試薬の在庫管理や発注などは技師が確認して行なっているが、自動化出来る可能性がある。また宮古島は離島であり、台風の影響で試薬が届かなくなる時がある。将来的にはAIやビッグデータにより、台風の発生に伴う航空や船便への影響による試薬の供給に影響が出ないようにする事が可能になると思う。

【これからの生化学・免疫検査技師】

AI・Iot・ビッグデータを駆使し検査データから疾患の予測や、疾患特定までの追加検査の奨め等ができると予測される。しかし、これらのデータを使用する際に大事なものは「間違いのないデータ」であることだ。検査データを承認する際に、患者取違いやEDTA混入などにより、間違っただけのデータと遭遇する可能性がある。そのデータを間違いだと判断でき、正しく対処を行うのは検査技師の務めだ。精度管理も重要であり、精度管理できていないデータではビッグデータも使用できず、AIも間違っただけの学習をしてしまう。検査データは測定のみならず、検体採取から検査精度に影響を及ぼす。そのためタスクシフトを通して、検査技師が検体採取を行うことは非常にメリットがあると思う。今後、生化学・免疫検査技師は検体の採取から携わり、これまでより検査精度向上に努める必要があると思う。